



国土交通省

清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト 清水港 新興津コンテナターミナルの整備

(1999~2016)



1990年代に入り、世界経済のグローバル化、アジア諸国の経済成長が進む中、国際物流における海上コンテナ輸送は増加の一途をたどりました。

清水港においても、既存の袖師・興津地区コンテナターミナルの取扱量は限界に近づきつつあり、急速に進むコンテナ船の大型化や、大規模地震発生時の物流機能維持にも対応した、大水深・高規格コンテナターミナルの整備が必要となりました。

これを受けて、1995年(平成7年)、興津第1埠頭東側に水深15m、延長350m×2バースの新たなコンテナターミナルを計画決定し、1999年(平成11年)に工事着手しました。

2003年(平成15年)7月に第1バース、2013年(平成25年)5月に第2バースの供用を開始し、コンテナ取扱貨物量全国8位(2020年)の清水港における主力コンテナターミナルとして、重要な役割を果たしています。

- 主要施設 / 新興津1~2号岸壁(水深15m、延長350m×2バース、耐震構造)、泊地(水深15m)、新興津防波堤(延長700m)
- 構造形式 / 新興津1~2号岸壁: 重力式岸壁(ハイブリッドケーソン)
- 事業期間 / 1999年(平成11年)~2016年(平成28年)



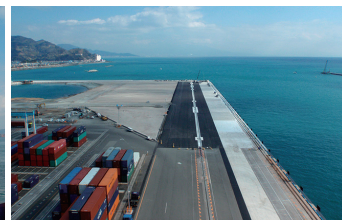
新興津コンテナターミナル整備前 (1994年4月)



現在の新興津コンテナターミナル (2021年5月)



岸壁本体(ハイブリッドケーソン)の据付作業 (2010年8月)



完成間近の新興津2号岸壁 (2013年3月)



岸壁へのガントリークレーン設置作業 (2013年3月)



新興津コンテナターミナル第2バース供用開始式典 (2013年5月25日)

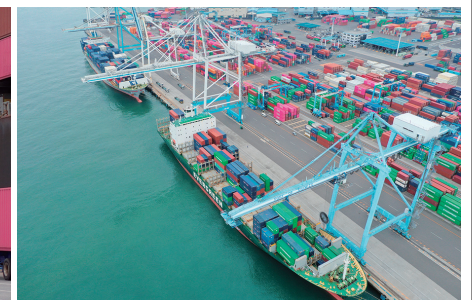
新興津コンテナターミナルの利用状況



大型コンテナ船「ONE Humber」(全長336m、総トン数9.9万トン) (2020年9月)



コンテナの積み下ろし (2021年4月)



コンテナ船の2隻同時着岸 (2021年5月)